

# 国道15号品川駅西口基盤整備における 国道上空デッキを活用した空間形成

飯塚 隆寛<sup>1</sup>・山下 敦馬

<sup>1</sup>関東地方整備局 東京国道事務所 交通ターミナル整備課 (〒102-8340 東京都千代田区九段南1-2-1)

国道15号品川駅西口基盤整備は、国道15号の拡幅による駅前広場整備、品川駅と周辺施設を繋ぐ国道上空デッキの整備を行う事業である。本稿では、国道上空デッキに着目し、駅前広場の良好な空間形成のための取り組みを示す。品川駅は、羽田空港からもアクセスの良い、国内有数のターミナル駅である。日本の「顔」となるような空間形成を目指し、デッキを広く覆う大屋根等による景観機能、広大な面積のデッキを活用した滞留空間の創出による交流機能や災害時の防災機能等の取組を示す。

キーワード 国道上空デッキ、交通結節点、駅前広場、景観デザイン

## 1. はじめに

東京都港区に位置する品川駅は、JR在来線や東海道新幹線、京浜急行本線が乗り入れるとともに、羽田空港とのアクセスも良く、日本の玄関口としての役割を持つ国内有数のターミナル駅である。また、多数の路線バスやタクシー等が発着し、将来はリニア中央新幹線の始発駅となることや、東京メトロ南北線の延伸の整備等が行われてることから、交通結節点としての需要が大きい。

駅周辺では、複数の民間企業による再開発事業が進行中であり、品川駅周辺の地域は、新たな国際交流拠点として非常にポテンシャルの高い重要な場所である。



写真-1 歩行者が交錯する品川駅西口



図-1 品川駅西口の開発状況

様々な開発が進められ、駅利用者の増加が見込まれる一方、品川駅西口駅前広場には十分な歩行者動線や滞留空間が存在せず、路線バスやタクシー待ちをする人と周辺施設へ行き交う人が交錯し、煩雑な空間となっている。品川駅西口から周辺施設に行くためには国道15号を横断する必要があり、駅とまちの連続性が乏しい。

## 2. 国道15号品川駅西口基盤整備について

### (1) 事業の経緯

2019年3月に「国道15号品川駅西口駅前広場事業計画」<sup>1)</sup>を策定した。同年4月の事業着手後、2023年6月には事業の検討、進捗状況を有識者、関係機関等との共有、円滑な事業推進を図るために「国道15号品川駅西口基盤整備に関する事業推進会議」を開催し、「国道15号品川駅西口駅前広場デザインコンセプト」<sup>2)</sup>を公表した。さらに、2024年度に準備工事に着手した段階である。

### (2) 国道15号品川駅西口基盤整備の目的について

国道15号品川駅西口基盤整備は道路上空を有効活用する計画で、整備内容は道路1階部分での駅前広場の拡張、道路2階部分での国道上空デッキの整備に分けられる。

#### a) 駅前広場の拡張

品川駅西口駅前広場は多様な交通が輻輳し、容量を超えた需要があり、国道15号に及ぶ滞留長が発生していた。このため、国道15号を拡幅し道路区域内に6車線と十分な歩行空間の整備、加えて路線バスの発着場の整備を計画することで、駅前広場の容量不足の解消を図った。

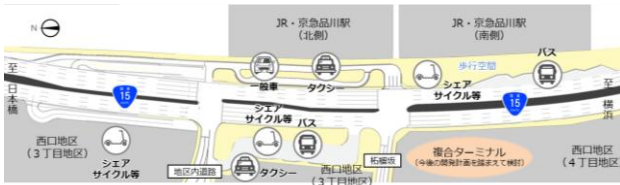


図-2 1階駅前広場の整備イメージ

### b) 国道上空デッキの整備

品川駅では京浜急行本線連続立体交差事業によって京浜急行本線が2階から1階部分に移動する。これを契機に、国道15号上に国道上空デッキを整備することで、自由通路機能を延伸し、西口地区の2階部分に接続する。これにより品川駅と西口地区が上下移動を伴わない歩車分離で移動でき、歩行者の利便性と安全性の向上を図った。

国道上空デッキは官民連携で整備を行う北側の交通広場デッキと、民間が整備を行う南側の賑わい広場デッキで構成される。交通広場デッキにはモビリティの待合機能等のための建屋が整備される他、駅とまち結ぶ大屋根とそこから派生する通路屋根が整備される。

本稿では東京国道事務所等で整備を進める北側の交通広場デッキを国道上空デッキと位置付け、国道上空デッキの良好な空間形成のための取り組みを紹介する。



図-3 品川駅周辺の自由通路機能イメージ

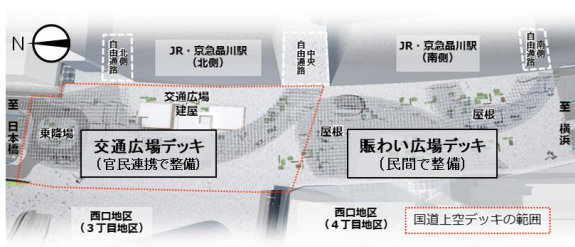


図-4 2階国道上空デッキの整備イメージ

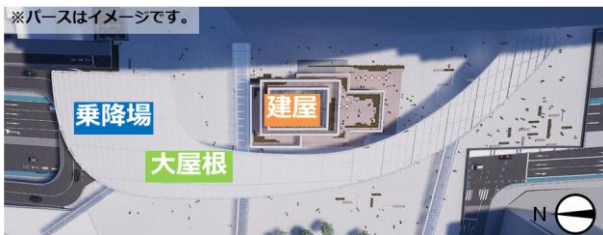


図-5 交通広場デッキ（国道上空デッキ北側部分）の全景

### 3. 駅前広場機能の考え方

駅前広場計画指針<sup>3)</sup>によると、駅前広場は、鉄道利用者のバス乗換えやタクシー乗換えなどのターミナル交通を処理する「交通結節点」としての機能を持つ一方、買い物客や待合せなどの人々の交流や都市の景観の形成などの「都市の広場」としての機能を担っている。「都市の広場」には表-1に記載の機能が求められ、これは品川駅西口の駅前広場にも必要な機能であると考えられる。

表-1 都市の広場として求められる機能

市街地拠点機能	都市の骨格を形成し、活動の中心の場として周辺の都市機能を支援する機能
景観機能	都市の顔にふさわしい美しさとシンボル性を備える機能
防災機能	公共的なオープンスペースとして、一時的な退避場所等の拠点となる機能
交流機能	人々が憩い、集い、語らう場として機能
サービス機能	集まった人々に対し、公共的なサービス、情報の提供をする機能

### 4. 品川駅西口駅前広場における広場機能

「品川駅 えきまちガイドライン」 創造編 2023<sup>4)</sup>では、品川駅は世界から人・企業を集める企業誘致・MICEプロモーションを行い、世界に誇る活力と潤いのある景観・環境形成等を戦略として挙げており、国道上空デッキは日本の玄関口にふさわしいシンボル性のある広場空間を求めている。以上より、表-1に示した機能と照らし合わせながら、品川駅に求められている駅前広場機能の創出に向けた取り組みを紹介したい。

#### (1) 市街地拠点機能

品川駅西口は、複数の再開発事業が動いており、これらにより、都市の骨格が形成される。国道上空にデッキを整備することで、周辺施設とのデッキネットワークが形成され、アクセス性が向上することで、周辺の都市機能を支援する場として駅前広場が機能することとなる。

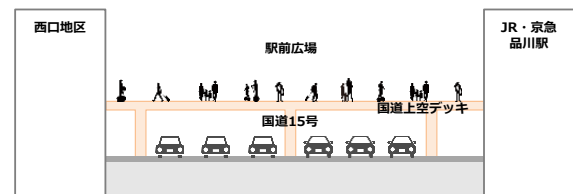


図-6 駅とまちを繋ぐデッキネットワーク

#### (2) 景観機能

##### a) 大屋根

大屋根は、日本の「顔」としての象徴性を持ち、国際交流拠点、日本の玄関口にふさわしい景観を形成する。また、国道15号からの見た場合に、国道上空デッキ全体がシンボルとなるよう、大屋根を引き立てるデザインとし、駅前広場周辺からの景観にも工夫した。さらに、大

屋根の造形は品川宿を継承すべく、街道に沿った「軒の連なり」を想定した弧を描く形状とした。さらに、品川駅西口の来訪者を「和」の雰囲気でもてなすために、やわらかい和紙のような質感を想起させる膜素材とし、屋根下でありつつ明るい空間を形成し、人々を迎え入れることができる色合いを感じられるデザインとした。



図-7 シンボルとなる大屋根

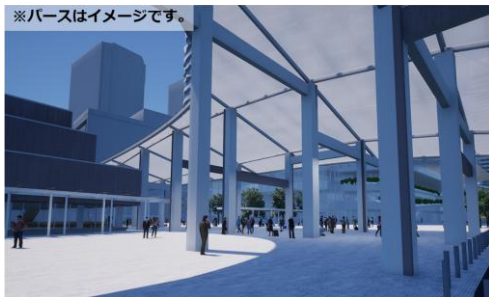


図-8 膜屋根に包まれた明るい空間

## b) 建屋

2つ自由通路からの視線が抜けるよう、国道上空デッキの中央に建屋を配置した。壁材は木のぬくもりを感じられる素材とし、色味は上品で落ち着いた「灰桜」という日本の伝統色とした。周辺街区の形状に調和する箱型のデザインとし、箱が各層で異なるボリュームを持つことで、平板で圧迫感を感じる印象を与えないようにした。

また、デザイン検討にあたり有識者から、建屋の四方がデッキの歩行者動線に面しているため、特に建屋西側のデザインが建物の裏口のように感じないように工夫する旨、指摘された。そのため、より建屋内部の活動が見えるよう飲食施設の開口を広く確保し、建屋のテラスに沿って植栽を配置することで、賑わいある空間を創出した。



図-9 賑わいをもたらす建屋西側のデザイン

## c) 舗装

国道上空デッキは周辺再開発事業によって整備されるデッキと繋がるため、これらのデッキと調和した舗装デザインとする。無機質で単調ではなく、駅や周辺再開発事業のデッキを視覚的に繋げ広がりを感じさせる目地をデザインした。また、訪れた人を温かく迎え入れる自然な温かみをもつ素材を選定した。



図-10 デッキ上の舗装デザイン

## (3) 防災機能

災害時、品川駅周辺は非常に多くの屋外滞留者が発生することが見込まれる。国道上空デッキでは、デジタルサイネージを活用して、屋外滞留者に対して一時滞在施設等の周辺の避難所情報、災害情報や交通情報を発信し、一時退避場所として利用できる空間として機能する。



図-11 情報発信イメージ

## (4) 交流機能

### a) デッキ上の滞留空間

国道上空デッキは人流が多くなると想定され、空間を効率的に活用する必要がある。具体には、品川駅と西口地区を繋ぐ通行空間を大屋根の存在で視覚的に示し、通行空間を明確化する。屋根が存在しないデッキでは、駅を出た歩行者は周辺施設へ直線的に歩行するが、大屋根や通路屋根があることでその下を歩きたくなるように誘導する。駅前広場における屋根は、歩行者行動に影響を与え、通行を整理、円滑化し、休息・交流の場を自然に形成できるため、国道上空デッキ上に大屋根や通路屋根があることで、交流ができる滞留空間の創出を図る。

また、滞留空間を想起させるベンチや植栽は、大屋根よりも西口地区側を中心に設置し、周辺再開発事業のデッキと一体的な空間が演出でき、人が集う広場となるよ

う意図した。木のぬくもりや自然の温かみを感じさせるようデザインし、建屋の壁材や舗装に用いた素材と同様とし、より一体的な空間となるように工夫した。

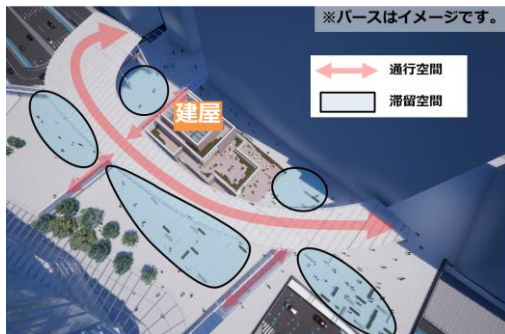


図-12 デッキ上の通行空間と滞留空間



図-13 ベンチ、植栽のある滞留・交流空間

## b) イベント

品川駅周辺では複数の事業者が存在しており、昼夜問わず、様々な人が行き交うことが想定される。国道上空デッキが通行のための空間として使われるのではなく、マルシェ等をはじめとしたイベントを行い、賑わいの創出や品川のまちの価値向上につながり、新たな交流を生む場所として機能する。

## (5) サービス機能

### a) アンブレラフリーの大屋根

歩行者空間として機能する大屋根は、雨天時でも傘を差さずに移動でき、アンブレラフリーの空間として機能する。晴天時は日射を避けられ、全天候型の空間となり、居心地の良く歩きたくなる駅前広場空間を提供する。

### b) 建屋

駅前広場周辺は国内外から多くの人が集まる立地であり、商業地区を形成していることから、建屋をモビリティの待ち空間としてのみ整備するのではなく、カフェ等の飲食施設や物販施設を備えた空間として整備する。また、観光案内所、コインロッカー、トイレ等の公共的なサービスを提供する設備を設ける。これらのサービスにより、人々が憩い、集い、語らう場となるオープンスペースとして使われさらなる価値向上につながる。



図-14 建屋内の待ち空間

## 6. 今後の展開

品川駅周辺は国際交流拠点として注目されており、世界中から人を引き付ける魅力、様々な交流とイノベーション、民間投資等を促進するために、積極的な広報活動が重要である。東京国道事務所では現在、国道上空デッキ全体を見ることができ、VRコンテンツを作成している。計画段階から整備イメージを公表し、国道上空デッキのみならず品川駅全体を俯瞰できるコンテンツの作成を目指している。周辺事業者と連携して広報を行い、良好な駅前広場空間の形成、品川のまちの向上を図りたい。

また、4章5節においてサービス機能を紹介したが、今後想定される機能として、次世代型のモビリティの運用がある。現在、次世代型のモビリティの開発や運用が急速に進んでおり、歩行支援を行うモビリティや、小さなエリアを回遊するモビリティ等の開発が進んでいる。品川駅周辺では、広大なデッキネットワークが構成され、これらのモビリティの運用に有効なフィールドになると考えられる。周辺事業者と協力し、今後の技術革新につなげられるような、モビリティの活用場所になるよう、デッキの運用方法について整備を進めていく必要がある。

さらに、より自由度の高い広場の活用ができるよう、官民連携による管理運営手法を検討している。PFI事業による民間のノウハウ等を活用した収益多様化や拡大を図り、国道上空デッキの維持管理への充当、まちづくり貢献事業を進め、更なる賑わい創出が期待できる。

引き続き、居心地が良い良好な駅前広場空間の形成に向け、整備を進めていきたい。

## 参考文献

- 1) 国土交通省関東地方整備局東京国道事務所：  
国道15号品川駅西口駅前広場事業計画2019.3
- 2) 国土交通省関東地方整備局東京国道事務所：  
国道15号品川駅西口駅前広場デザインコンセプト2023.5
- 3) 日本交通計画協会：  
駅前広場計画指針 技法堂出版,1998.7
- 4) 東京都都市整備局：  
「品川駅 えきまちガイドライン」 創造編 2023
- 5) 清水祥貴, 深堀清隆：  
駅前広場における繋がりを考慮した屋根の整備水準の評価  
交通工学論文集, 第9巻, 第3号, pp.11-23, 2023